

戦略的な実証実験支援 審査基準

評価項目	評価の視点	応募申請書の該当箇所
1 事業としての優位性		
① 「中長期的な視点で社会実装を目指すモビリティ関連技術の開発検証・実証実験」というテーマに沿った内容となっているか。 【本支援事業の戦略との親和性】	・中長期的な社会実装を目指すモビリティ関連技術の開発の加速、横浜発の新たなモビリティビジネスの振興など、本事業のねらいに合致した提案か	開発の経緯・目的、「事業」の目標 事業のコアとなる製品・サービス
② 次世代型のモビリティに係る先端技術を活用し、 ③ その発展が期待できるか。 【新規性・技術的優位性、独創性】	・自社の事業における当該製品・サービスの位置づけが検討されているか ・類似・競合の製品に対する技術的優位性があるか ・社会実装までのロードマップが検討されているか	ユースケースの想定 事業のコアとなる製品・サービス 短期的／中長期的な事業目標の達成に向け取り組むこと
③ 将来的に、新たな社会的・経済的価値を創出する ④ ようなインパクトが期待できるか。 【新規性・技術的優位性、独創性】	・社会に新たな価値を提供するビジネスになりそうか ・話題性・新規性のある取組か	開発の経緯・目的、「事業」の目標 類似・競合の製品の有無と差異化ポイント
④ 当該製品・サービスを用いたビジネスモデルの検討がなされているか。 【市場性・将来性】	・ユースケースが描いているか ・ユースケースに合致した付加価値の想定ができているか ・社会実装を見据えた検討ができているか	ユースケースの想定 顧客・ユーザーに対する付加価値 短期的／中長期的な事業目標の達成に向け取り組むこと
2 実証実験の実現可能性		
① 事業全体において今回の実証実験が明確に位置づけられており、平易な言葉で簡潔に説明されているか。	・実証実験の目的は明確か ・想定する実証実験の実施内容が明確に記載されているか	実証実験の目的、想定する実施内容 実施希望時期 期間・回数 検証したい項目
② 実証実験で検証すべき項目は明確か。また、今後の事業推進における検証結果の活用方法を検討できているか。	・検証項目は実証実験の目的に対して妥当か ・開発のステージゲートにおける現状と次のステップを設定し、次に進めるための要件を明確化できているか	検証したい項目、効果検証の指標 実証実験を通じて収集予定のデータとその収集方法 収集したデータをもとに得ようとしている知見・示唆
③ 実証フィールドに求める要件（実施環境、被験者の有無等）が明確であるか。また、その要件は現実的か。	・候補となるフィールドがありそうか ・フィールド側が受け入れ可能な要件であるか（フィールド側に確認できない場合はフィールド側に無理のない要件と判断できるか）	想定するフィールド、想定する被験者 フィールド側と調整が必要な項目
④ フィールドとのマッチング後、すみやかに実証実験が開始できる見込みがあるか。	・実証実験開始までに必要な製品・サービスの開発は進んでいるか（軀体の場合は走行できるか、アプリケーションの場合は作動するか） ・実証実験のスケジュールは妥当か	実証実験開始までに必要な開発・改良とそれにかかる期間 フィールド側と調整が必要な項目
⑤ 実証実験の実施における安全対策が十分検討されているか。	・被験者や周辺の通行人に対する安全性（対人）、フィールドに対する安全性（対物）の両面で検討されているか。	実証実験にあたり想定されるリスク 実施予定の安全対策
⑥ 事業計画に記載の従事予定者や社内体制など実証を遂行する能力を有しているか。	(左記の通り)	実施体制図
3 その他加点項目		
① スタートアップによる提案、またはスタートアップと連携して行う提案である。	(左記の通り)	実施体制図
② 他のフィールドにおいて水平展開が期待できる。 【市場性・将来性】	(左記の通り)	ユースケースの想定 顧客・ユーザーに対する付加価値